

芸術祭に外国人として初参加



韓国舞踊団を主宰する朴貞子さん

「韓国舞踊」というと民族もの、人権問題として見られがちですが、まずは「普通の姿」として見てほしい」

在日韓国人、朴貞子さんが主宰する韓国舞踊団の創作劇「アリアリ」が十四日、都内の東京簡易保険会館で公演される。

永遠に続く人間の愛と悲しみを描いた「アリアリ」とは、朴さんの解釈によると「民衆を意味する」。この舞踊劇が、文化庁芸術祭に外国人主宰の団体として初めて参加が認められた作品となった。

本場（韓国）優遇、在日韓国人の母国志向への「三つの差別」があるために、韓国モノに一生懸命取り組み組んでも目の目を見ることはないと思っていました。文化庁が外国人に門戸を開いたことは意義があります」。訴える目は鋭い。

演出家、関天幸雄さんとの出会いが転機になった。「朴さんの踊りはいいね、明るいよ」と励まされたという。

アリアリも関天作品「山懐（ふところ）」を再構成した創作劇。「以前はいつ死んでもいいと思っていたが、アリアリと出合っ

が出てきました。死んだら犬死にです。今は舞踊以外関心を持ってないんです」。さわやかな笑顔になった。

